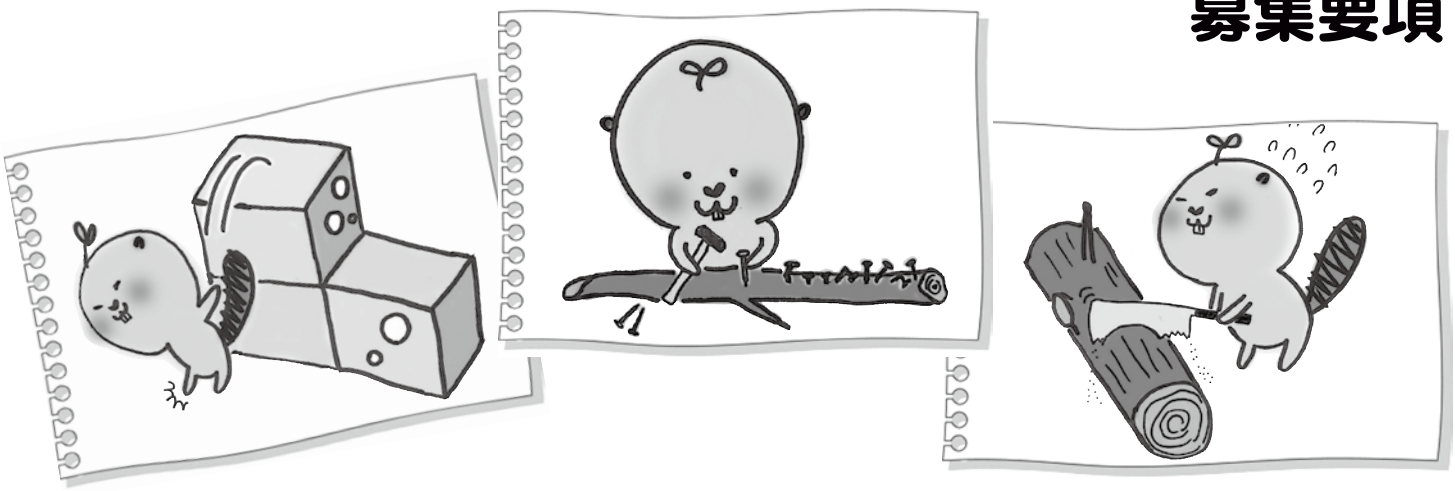
第5回冒険遊び場づくり全国研究集会

募集要項



外遊びが社会をひらく

～もっと もっと もっと 遊びを～

本集会：2010年10月30日(土)・31日(日)

オプション企画：29日(金)冒険遊び場見学ツアー（近郊の遊び場を見学します）

■場　所：神奈川県横浜市 野島青少年研修センター他

★託児についてはお問い合わせ下さい。

■参加対象：子育て中の親、冒険遊び場づくりに関心のある個人・グループ、行政職員、研究者などどなたでも。

● 申込締切：9月30日（木）必着。ただし定員になり次第締め切ります。

■ 主　　催：特定非営利活動法人**日本冒険遊び場づくり協会**

■ 協　　賛：大正大学、財団法人横浜市青少年育成協会

開催趣旨

私たち日本冒険遊び場づくり協会は、子どもにとって「遊び」は『生きることそのもの』であると考えています。しかし、残念ながら、現代の日本の社会は子どもの自由な「遊び」を守り、支えていける環境ではありません。そこで私たちは、地域の大人たちが子どもたちの遊びを支えることが大切と考え、「遊びあふれるまちへ！」を実現するために日々活動しています。

2008 年に行った前回の全国研究集会以降、全国の自治体の各種計画に冒険遊び場の推進が位置づけられる例が増えてきているなど、活動の手ごたえを感じる一方で、「冒険遊び場の条件とは？」など、冒険遊び場をより一層社会に拡げていくためには避けて通れない、質を問う声も出てきています。

記念すべき第 5 回となる本集会は、私たち自身が活動の原点に立ち戻り、冒険遊び場の社会的意義を明らかにし、その魅力や役割を整理していくことを目指します。

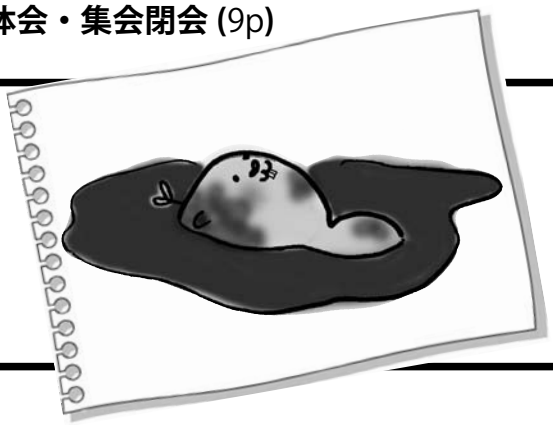
そして、「外遊びが社会をひらく～もっと もっと もっと遊びを～」をテーマに掲げ、「日本の冒険遊び場づくり 35 年の活動の軌跡」や「子どもと共に暮らす豊かな地域の実現に向けた取り組み」が、これまで以上に全国に広まり、伝えられることを願います。

子どもが遊びの中で自らの生きる力を獲得していくように、我々大人も、自らの今への挑戦を楽しむことが必要であり、それが後には社会をひらくエネルギーとなることを信じ、この会に集う皆さんと、その思いを共有できるような集会を創り上げていきたいと考えます。

全体プログラム

※詳細は ( ) 内の各ページをご参照下さい。

	時　間	企　画	場　所
29日(金) オプション企画	10：30～16：00	**近郊冒険遊び場見学ツアー** (3p)	近郊の冒険遊び場３コース
	10：00～16：30	**巨大テント設営ワークショップ**（3p）	野島公園キャンプ場
	17：00～19：00	**見学ツアー報告会**（3p）	野島青少年研修センター
	19：00～	**夕食　～　宿泊**	
30日(土) 本集会	10：00～12：00	**記念講演**（別紙チラシをご参照下さい。）	関東学院大学
	12：30～	**本集会受付開始**	
	13：30～15：00	**集会開会・基調講演**（4p）	野島青少年研修センター
	15：00～18：00	**分科会** **【A】【B】【C】【D】**(5p) **【E】【F】【L-①】【M-①】【N-①】**(6p)	野島青少年研修センター 分科会各会場
	18：00～19：30	**地域運営委員による持ち込み企画タイム**	
	19：30～	**懇親会**	
31日(日) 本集会	9：30～12：30	**分科会** **【G】【H】【I】【J】**(7p) **【K】【L-②】【M-②】【N-②】**(8p)	野島青少年研修センター 分科会各会場
	13：30～15：10	**全体会・集会閉会** (9p)	野島青少年研修センター



29日（金）オプション企画

■近郊冒険遊び場見学ツアー　10：30～15：00（16：00本集会会場到着）

1、2コースの定員は20名程度（交通費は自己負担）。**3コース**は片倉うさぎ山プレイパークからバス移動で、定員は25名程度です。全コース10：30現地集合し、13：00には次の見学場所到着、16：00には会場である野島に到着できるように移動します。料金は別紙申込書を参照してください。

1コース　羽根木プレーパーク→のざわテットーひろば

●羽根木プレーパーク
☎03－3324－9284
住 所：世田谷区代田4-38-52羽根木公園内
アクセス：小田急線「梅ヶ丘駅」徒歩3分、京王井の頭線「東松原」徒歩7分
※羽根木プレーパークの報告書他、視察セットが資料代（1,000円）として参加費の中に含まれます。

●のざわテットーひろば
☎03－3418－9950
住 所：世田谷区野沢3-14-22
アクセス：東急東横線「学芸大学」駅から徒歩10分、渋谷駅西口から東急バス野沢龍雲寺循環「野沢3丁目」バス停より徒歩2分

2コース　新宿・戸山プレーパーク→渋谷はるのおがわプレーパーク

●新宿・戸山プレーパーク
☎090－1846－8004
住 所：新宿区大久保3丁目都立戸山公園大久保地区
アクセス：地下鉄副都心線「西早稲田」駅徒歩3分、JR山手線・西武新宿線・地下鉄東西線「高田馬場」駅徒歩15分、JR山手線「新大久保」駅徒歩10分、都バス「コズミックセンター前」徒歩5分

●渋谷はるのおがわプレーパーク
☎03－3481－9661
住 所：東京都渋谷区代々木5-68-1 区立はるのおがわコミュニティパーク
アクセス：東京メトロ代々木公園駅出口3より徒歩5分、小田急線代々木八幡駅より徒歩7分、新宿駅西口から京王バスの新宿駅路線「宿51」で代々木公園西門バス停下車徒歩3分

3コース　片倉うさぎ山プレイパーク→川崎市子ども夢パーク

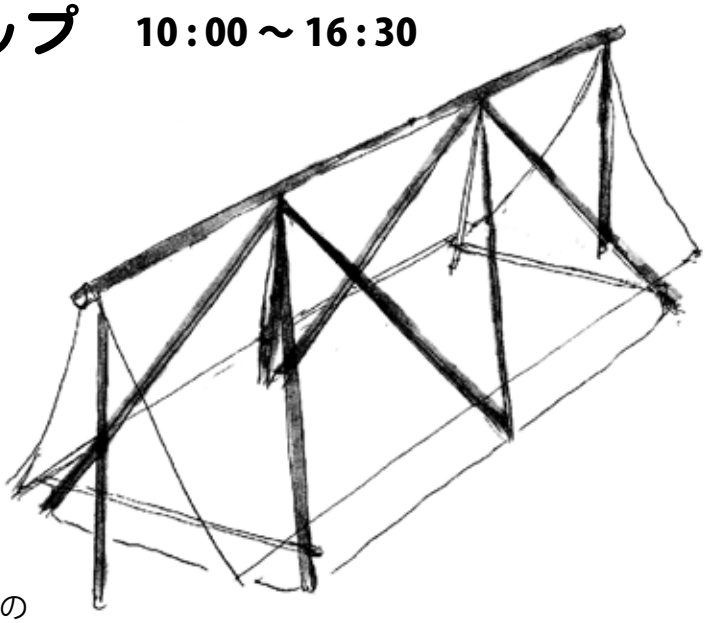
●片倉うさぎ山プレイパーク
☎045－413－2105
住 所：横浜市神奈川区片倉2-42
アクセス：市営地下鉄片倉町駅下車新横浜通りを三ツ沢方面へ徒歩10分、横浜駅西口から市営バス　３５系統「片倉町入口」下車徒歩3分、相鉄バス　４４・８３系統「峰沢団地前」
※当日は閉園日ですが、現地の見学とプレイパークができ上がった経緯、現在の横浜市における位置づけなどを紹介する予定です。

●川崎市子ども夢パーク
☎044－811－2001
住 所：川崎市高津区下作延5-30-1
アクセス：JR南武線津田山駅より徒歩7分。

■巨大テント設営ワークショップ　10：00～16：30

現場監督／天野 秀昭

● 場　　所：野島キャンプ場にて（本集会会場前庭）
● 参 加 費：1,000円（お昼代込み）
● 募集人数：10名



丸太とブルーシートで建てる巨大テント。
せたがやの夏のキャンプで
「60人がいっぺんに泊まれるテントがほしい！」という
要求から開発した完全オリジナル。
1ピースが5メートル四方の四角錐となっており、それを組み合わせることで理論的にはいくらでも大きくできる。
せたがやのキャンプでは60畳一間の空間を作り、
一週間もの間、山中の風雨にも耐えた。今回は巨大テントの作り方とともに、番線やシノの使い方を伝授。２ピースを組み合わせ、３０畳の空間を作る。
それぞれの遊び場に持ち帰って、ぜひ有効に使ってほしいスキルだ。

■見学ツアー報告会
17：00～19：00

コースに分かれて見たり聞いたりしたことを、一堂に会しお互いに報告します。

30日（土）基調講演　分科会一覧

■基調講演　13：30 ～ 15：00

今回の基調講演では当協会代表であり日本の冒険遊び場の創始者ともいえる大村虔一、そして今回の全国研究集会実行委員長であり、「川崎市子ども夢パーク」の所長、西野博之の二人がそれぞれに語ります。

大村虔一

一昨年に亡くなった大村璋子さんと共にヨーロッパ各地の冒険遊び場を訪ね、1975 年に夏休みだけの冒険遊び場「経堂子ども天国」（東京・世田谷）を始める。この活動が、1979 年に開設した「羽根木プレーパーク」につながっている。
特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会の現代表であるほか、宮城県教育委員長などの要職も務めている。
共訳として、冒険遊び場づくりの原書となる『都市の遊び場』『新しい遊び場』（鹿島出版会）がある。

西野博之

1986 年から「不登校」や様々な「障害」のある子どもたちの居場所づくりに関わり、91 年、川崎市内にフリースペースたまりばを開設。川崎市子ども権利条例づくりに携わり、フリースペースと冒険遊び場を併せもつ川崎市子ども夢パークづくりに初めから関わる。2003 年、子ども夢パーク内に公設民営の「フリースペースえん」を開設。2006 年からは子ども夢パーク所長に就任。現在、毎日新聞にコラムを連載中。
著書：『居場所のちから』（教育史料出版会）

案内人／嶋村仁志： 1996 年より「羽根木プレーパーク」プレーリーダーを経て、その後「川崎市子ども夢パーク」、「プレーパークむさしの」などを中心に、国内外で冒険遊び場づくりに関わってきた。今年、「子どもが豊かに遊べる東京を」というミッションのもとに、実践者・行政・研究者・市民の広域ネットワークを目指して、「TOKYO PLAY」を立ち上げた。
訳書に「プレイワーク子どもの遊びに関わる大人の自己評価」（学文社）がある。

■分科会一覧

『冒険遊び場の中での問題意識から始まる分科会（【A】~【G】,【L- ①】,【M- ①・②】,【N- ①・②】）』と『冒険遊び場の外側から考える分科会（【H】~【K】,【L- ②】）』

今回の全国集会ではメインテーマ「外遊びが社会をひらく」を受け、冒険遊び場の中のことを考える分科会（白枠内）と、冒険遊び場を取り巻く社会との接点や冒険遊び場がそれらに与える影響について考える分科会（グレー枠内）の 2 本の柱で構成し、それぞれを別日に設定しました。当日は各分科会で、みなさんそれぞれの当事者意識に基づいたコミュニケーションが展開されるかと思いますが、その一方で「社会をひらく」ことについても意識を向けていけることのできる分科会を共に創っていきたいと考えています。

※【L】、【M】、【N】の分科会は両日通して参加いただくことで、より理解が深まります。

30 日（土）　15：00 ～ 18：00		31 日（日）　9：30 ～ 12：30	
【A】	初めの活動の一歩	【G】	冒険遊び場づくりを絵日記で共有する
【B】	いつも戸惑う遊びのあれこれ ～子どもの遊びとあなたの思い～	【H】	冒険遊び場で出会う気になる子
【C】	育ちのプロセスからプレーリーダーを考える	【I】	フリースペースと冒険遊び場が隣接する意味
【D】	冒険遊び場に遊具は必要？	【J】	子ども政策と冒険遊び場
【E】	冒険遊び場づくり活動でどうやって稼ぐ ?!	【K】	待ってないで出かけちゃおうよ !! ～プレーカー活動から見えること～
【F】	冒険遊び場づくり運営の多様性		
【L- ①】	冒険遊び場をつくるだけでいいのかな？ ～私たちの活動の本当の目的は？～	【L- ②】	遊びあふれるまちへ ～子どもに関わる大人のできること～
【M- ①】	リスクとハザード	【M- ②】	「自分の責任で自由に遊ぶ」とは
【N- ①】	こんなシーンに出会いたい！ ～冒険遊び場づくりの夢を語ろう～	【N- ②】	こんなシーンに出会いたい！ ～冒険遊び場づくりの夢を語ろう～

30日(土)分科会

※各分科会には定員があります。先着順で決まりますのでお早めにお申し込み下さい。
　参加申し込み書には第１希望から第３希望までご記入下さい。
※【L】、【M】、【N】の分科会は両日通して参加して頂くことで、より理解が深まります。

※凡例：【ワーク】簡単な作業を行います。　【ワークショップ】ある目標に向かい共同作業を行います。
【ディベート】立場を分けてグループによる討論を行います。

【A】　初めの活動の一歩

講　義
一問一答

担　当：平田嘉典（(特非) 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク）
講　師：大村虔一 (当協会代表)

　今回の全国集会のテーマが『外遊びが社会をひらく～もっと もっと もっと遊びを～』
社会に外遊びの大切さを広めていくことは、新しい遊び場が増えることにも繋がっていきます。
　そんな時、どうやって創ったらいいんだろう？と悩む人は少なくないと思います。
そんな人たちが一歩目を踏み出すキッカケ、私たちでも出来る !! と思えるような分科会です。

【B】　いつも戸惑う遊びのあれこれ～子どもの遊びとあなたの思い～

ワーク
ディスカッション

担　当：喜多見亘 (渋谷はるのおがわプレーパーク、四谷とことんあそぼう)
半田裕 ((特非) 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク)、
矢郷恵子 (東京地域運営委員、KOPA(kids・Outdoor・Play・Activity))

　ありのままを受け止める、気持ちに寄り添う、" やってみたい " を大切にする。
言葉にすると簡単でも、実際やると…？遊びと関わる中でぶつかる様々な戸惑いや迷い。その正体を明らかにしていつもと違った角度から見つめて見ませんか？今まで見えなかったものが見えてくるかも！
　この分科会では色々な立場から視点を出し合い話すことで、自分の遊びとの関わり方を振り返り、新たな視点を手に入れることを目指しています。
　一緒に子どもの遊びと関わることについて考え、日々の実践に生かしましょう！

【C】　育ちのプロセスからプレーリーダーを考える

ワーク
ディスカッション

担　当：練馬プレーリーダー会
話題提供者 : 交渉中 (プレーリーダーを予定しています)

　はじまりは、「プレーリーダーとしての育ちには、人それぞれ歴史があるはずだ」という投げかけでした。プレーリーダーは、保育士や教職員と同じく、最初から完璧に育っているのではありません。多くの人が、謎や壁、失敗に直面し、子どもの前に立つ大人として大切なものをつかむ経験を重ねてきたのです。
　この分科会では、練馬プレーリーダー会の研究成果を参考にしつつ、プレーリーダーの育ちに見られる共通要素や成長段階を追いかけます。

【D】　冒険遊び場に遊具は必要？

ディベート
ワークショップ

担　当：入江雅子（東京地域運営委員、戸山あそび場）
山尾敬（(特非) 冒険あそび場ネットワーク草加）

　冒険遊び場に遊具は必要なんだろうか？必要だとしたらなぜ？大人は遊具に何を求めているのか？
子どもにとってはどうなのか？遊具がなければ冒険遊び場らしくない？
　遊具をめぐるみんなの想いを、ディベート形式、事例の出し合いを通じて整理し確認していく、全員参加型のワークショップです。冒険遊び場における豊かな遊び環境とは何か、みんなで考えてみましょう。

【E】 冒険遊び場づくり活動でどうやって稼ぐ?!

担　当：高橋利道（(特非) 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク）
話題提供者：渡部達也 ((特非) ゆめ・まち・ねっと代表) 他、交渉中

ワーク
ディスカッション

今や全国 250 ヶ所以上で取り組まれている冒険遊び場づくり、みなさん子ども達にもっと豊かな遊び環境をと、日々熱い思いで活動されていると思います。

でもでも、その一方でどうしても付いて回るのが、お金の話。本分科会では、みなさんが実際に行っている資金獲得のノウハウとそれにまつわるエピソードを持ち寄り、共有することを通して、懐と心が " ほくほく " (した気分) になる、そんな時間にしていきたいと思います。

【F】 冒険遊び場づくり運営の多様性

担　当：梶木典子（当協会副代表）, 根本暁生（当協会理事）, 佐々木健二（当協会理事）

ディスカッション

全国各地で冒険遊び場づくり活動が繰り広げられ、その運営方法も多様になってきています。また、行政と住民のパートナーシップのあり方も多様になってきています。

3 年毎に実施している「冒険遊び場づくり実態調査」から浮かび上がってくる現状・課題の報告を皮切りに、各地で繰り広げられる冒険遊び場づくりの運営について叡智を集め、参加者で共有、討議することにより、知恵・知識・技術を全国各地へ広めていきましょう。

【L- ①】冒険遊び場をつくるだけでいいのかな？ 私たちの活動の本当の目的は？

担　当：小津真知子（戸山あそび場）, 岡野富茂子 (港南台生き生きプレイパーク)
タカネミノリ (神奈川地域運営委員 , (特非) CLCA(子どもと生活文化協会))
ファシリテーター：天野秀昭（当協会副代表）　話題提供者：沖洋子 (児童館職員)

ワークショップ
ディスカッション

「ここは会員制ですか？」遊び場で時々聞かれる言葉です。冒険遊び場って時に内輪的に見られることも。遊んでいる大人も子どももみんな仲が良く、世代も超えた信頼関係も成り立つという、冒険遊び場の素晴らしい面の裏返しの面かもしれません。またそれぞれの活動の場を運営することはとても大変。忙しさに埋もれ、ついつい目先のことにとらわれることもあるのでは…。

私たちの活動の本当の目的って何だったろう？　一緒に考えていきませんか？

【M- ①】リスクとハザード

担　当：早川大（東京地域運営委員 , 防災防犯アドバイザー）
講　師：大坪龍太（PSN(プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク) 代表）

ワーク
講　義

「事故」や「危険」は「予測できる要因 (リスク)」から「不測の要因 (ハザード)」まで様々な事が挙げられます。全国に約 250 ヶ所で展開される冒険遊び場づくり。本分科会は、この活動を守り発展させていくために、事故やケガの問題を深く見つめ、そのことから学び、今後に生かすためのものにします。

遊びの魅力とそれを引き出す要素とは何なのか、それを損なわずにどうしたら最大限の安全を保てるのかについて、事例を交えて考え、共有していきます。

【N- ①】こんなシーンに出会いたい！冒険遊び場づくりの夢を語ろう

担　当：谷居早智世（当協会会報編集委員）, 古賀久貴（当協会理事）
進　行：西川正（（特非）ハンズオン！埼玉　常務理事）, 古賀久貴

ワークショップ

「絵本に出てくるような、こんな場面に出くわしたいのよねぇ～」
秘めた思いを持ち寄って、語り合いましょう。
自分たちの活動を振り返り、わかちあうことで「ホンモノの遊び場って何だろう？」がわかるかも ?!
子連れ歓迎、お茶菓子の差し入れ大歓迎デス。
＊冒険遊び場／づくりを語るおすすめの絵本か物語を 1 冊持ってきてくださいね。

31日(日)分科会

※各分科会には定員があります。先着順で決まりますのでお早めにお申し込み下さい。
　参加申し込み書には第１希望から第３希望までご記入下さい。
※【L】、【M】、【N】の分科会は両日通して参加して頂くことで、より理解が深まります。

※凡例：【ワーク】簡単な作業を行います。　【ワークショップ】ある目標に向かい共同作業を行います。

【G】　冒険遊び場づくりを絵日記で共有する

担　当：子どもたちの森公園（千葉市）の仲間たち
講　師：菅博嗣（当協会理事・(有) あいランドスケープ研究所代表）

ワークショップ
ディスカッション

　子どもたちの森公園（千葉市）では、遊びの鮮度を瞬間冷凍するように日々の様子を絵日記に描き込んでいます。この分科会では、これまでに描きためた約 1000 枚の絵日記を解凍した成果を素材として、遊びの醍醐味について語り合います。そしてより多くの人と交換することのできる冒険遊び場づくりの語り口と共有の術を見つけだしましょう。

【H】　冒険遊び場で出会う気になる子

担　当：高橋悠子（(特非) 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク）
渡部達也（(特非) ゆめ・まち・ねっと）, 渡部美樹（冒険遊び場たごっこパーク）
講　師 : 馬見塚珠生 (親と子のこころのエンパワメント研究所　臨床心理士 , 宇治に冒険遊び場つくろう会副代表)
報告者 : 根本葉子（冒険松原あそび場）

講　義
情報交換
質疑応答

　冒険遊び場は誰でも遊びに来れる場です。子どもたちが「素」の自分でいられる場です。
それゆえにいわゆる「気になる子」に「居場所」を提供できる可能性も持っています。
　近年、目にする機会の増えた高機能自閉症、ＡＤＨＤ、アスペルガー症候群等々「発達障害」のイロハを押さえながら、家庭・学校・地域で「居場所」を失いがちな「気になる子」に冒険遊び場がやさしく寄り添えるように学び合う分科会です。

【I】　フリースペースと冒険遊び場が隣接する意味

担　当 , 講　師 : 西野博之 (本集会実行委員長、(特非) フリースペースたまりば)

講　義
ディスカッション

　川崎市子ども権利条例をもとにできた子ども夢パーク。１万平方メートルの敷地内に、不登校の子や障がいのある子たちが通ってくる公設民営の屋内型の居場所「フリースペースえん」と、冒険遊び場が共存していることの意味について考えます。
　教育と福祉のはざまを超えて、学校外で遊び、育つ環境として、フリースペース・冒険遊び場が連携することの意義と可能性について、豊富な画像を見ながら、語り合いましょう。
　また、冒険遊び場が持っている「相談・救済」機能や「屋外型子育て支援」機能（乳幼児親子の広場）についても、行政関係者も交えて深めていきたいです。

【J】　子ども政策と冒険遊び場

担　当：嶋村仁志（当協会理事）, 松田妙子（(特非) せたがや子育てネット）
講　師 : 交渉中（専門家の招聘を予定しています）

講　義
ディスカッション

　「待機児童解消」や「子ども手当」が話題となる中、内閣府を中心に「子ども子育て新システム」づくりの議論が進み、「すべての子どもたちへ」という政策への転換も図られ始めています。
　私たちは、「子どもの居場所」「市民活動によるまちづくりの拠点」など、地域で様々な機能を持つ冒険遊び場を政策にどのように位置づけられるでしょうか。
この分科会では、「子ども子育て新システム」について学習し、これからの課題や視点について話し合います。

【K】 待ってないで出かけちゃおうよ!! プレーカー活動から見えること

ワーク
ディスカッション

担　当 ： 竹内乃璃妃（当協会理事、(特非) プレーパークせたがや）
事例報告者 : 交渉中

冒険遊び場が「待ち」なら､プレーカーは「攻め」。単なる「遊びの出前」や「遊ばせ屋」ではないプレーカー。
・子どもが日常的に地域で遊ぶ起爆剤に！
・地域の子ども、大人がつながるきっかけに！
・「子どもを見る大人の目」が変わり、もっと子どもが遊べるまちに！
そんな夢をもったプレーカー。何ができるのか？何を大切に動いていくのか？
プレーカーに限らず、おでかけ作戦でできることを一緒に考えましょう！

【L- ②】 遊びあふれるまちへ子どもに関わる大人のできること

ワークショップ
ディスカッション

担　当 ： 小津真知子（戸山あそび場）, 岡野富茂子 (港南台生き生きプレイパーク)
タカネミノリ (神奈川地域運営委員 , (特非) CLCA(子どもと生活文化協会))
講　師 ： 大村虔一（当協会代表）

「遊びあふれるまちへ」冒険遊び場をつくることはそのための素晴らしい手段の一つだけれど、本当はこの子どもの遊びを大切にするあたたかな場の空気が社会全体に広まってくれたらいいな。
冒険遊び場がない所でだって、児童館でも、学校でも、どこでも…！
冒険遊び場での活動の体験が場を超えて社会を変えるうねり、運動となるように、私たち大人一人一人ができることを探っていきましょう。一人一人が意識していったらきっと、もっと社会は変わるはず！

【M- ②】「自分の責任で自由に遊ぶ」とは

ワーク
講　義

担　当 , ファシリテーター : 天野秀昭（当協会副代表、大正大学）

冒険遊び場のモットーとして広く使われている「自分の責任で自由に遊ぶ」ですが、ここ数年「自己責任で遊ぶ」という使い方をする場面も見られます。一見同じ言葉を使っている両者ですが、実は大きな落とし穴が潜んでいます。
そこで本分科会では、次の 2 点を切り口に考えていきます。
①子どもにとって自由な遊び場を実現する上で、このモットーが言わんとする本当の意味を考えます。
②賠償責任と裁判について、実際の事故の事例から学びます。

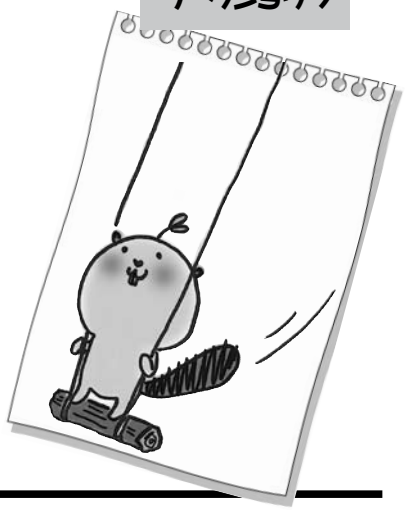
【N- ②】こんなシーンに出会いたい！冒険遊び場づくりの夢を語ろう

ワークショップ

担　当 ： 谷居早智世（当協会会報編集委員）, 古賀久貴（当協会理事）
進　行 ： 西川正（（特非）ハンズオン！埼玉　常務理事）, 古賀久貴

「絵本に出てくるような、こんな場面に出くわしたいのよねぇ～」
秘めた思いを持ち寄って、語り合いましょう。
自分たちの活動を振り返り、わかちあうことで「ホンモノの遊び場って何だろう？」がわかるかも ?!
子連れ歓迎、お茶菓子の差し入れ大歓迎デス。
＊冒険遊び場／づくりを語るおすすめの絵本か物語を 1 冊持ってきてくださいね。

※実施する内容は 30 日と同じですが、参加者が違えば まったく違う場になります。
2 日とも違ったきづきや学びが得られたり、深～く掘り下げたりできることもあるかもしれません。両日の参加もおすすめです。



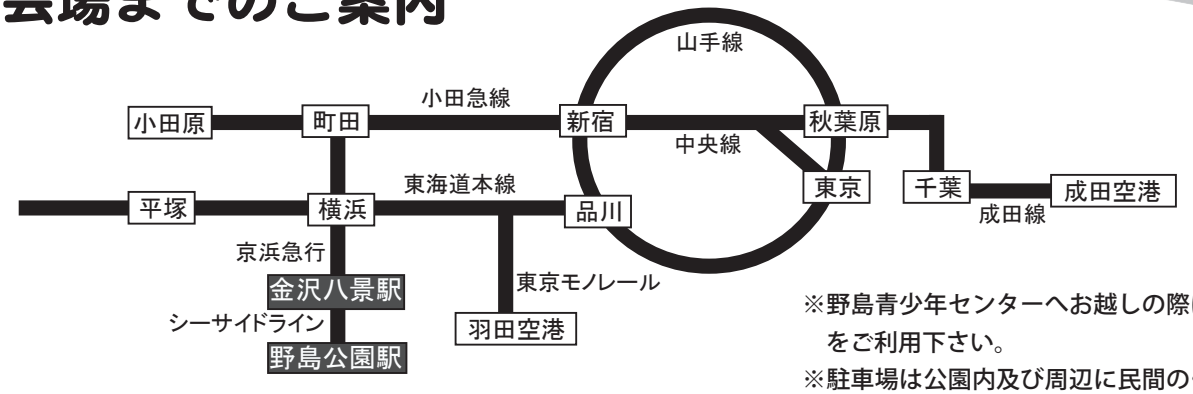
■全体会　野島青少年研修センター　13：30～15：10

1998年の第一回全国集会から12年。始め56団体だった活動団体は、5回目の開催には250を数えるほどになりました。この間、歴史を重ねてきたところも誕生したばかりのところも、またこれから取り組もうと準備しているところもあり、突き当たる課題や運営の方法、プレーリーダーに関する認識などますます多様化しているといえます。

また社会的に眼を向けると、子どもの遊びの機会や環境はますますやせ衰え、冒険遊び場の取り組みはその認知が決して高いとはいえない状況のままです。その打開にと、今年はプレ企画として『冒険遊び場全国一斉開催の日』を設け実験的にキャンペーンを張ったりもしました。

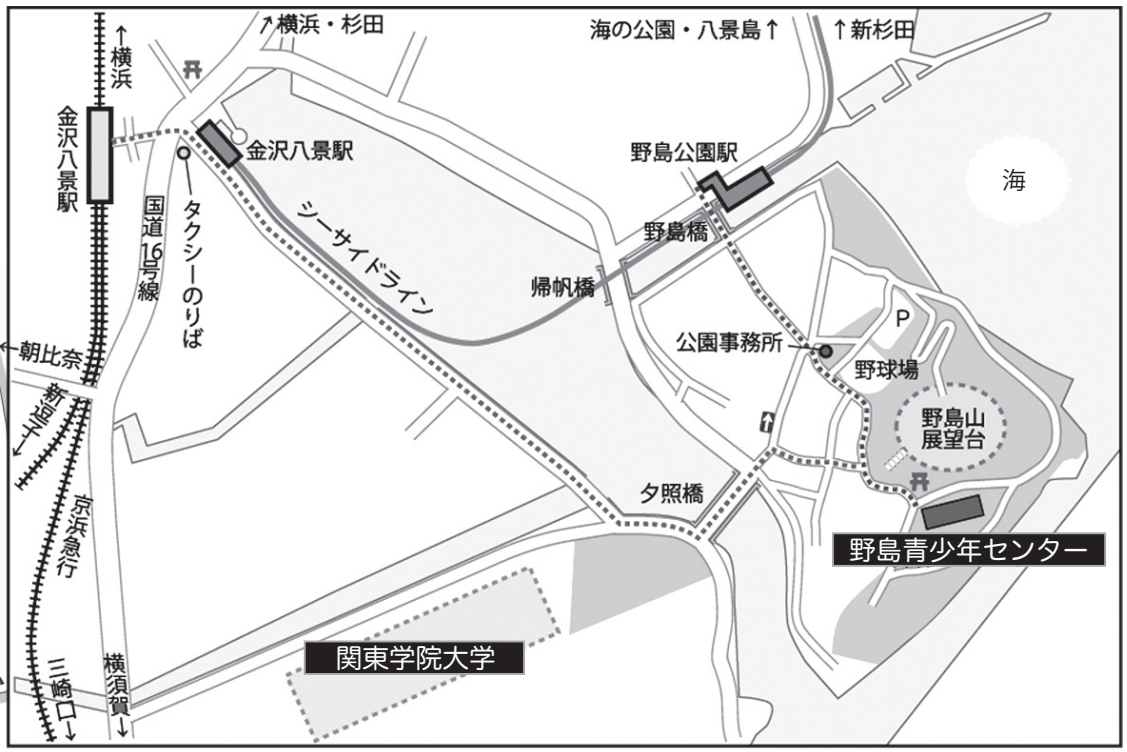
この全体会では、子どもの遊び環境を少しでも豊かにするために何ができるかを改めて考えたいと思います。従来の現状認識に加え、今回の各分科会での切り口から示された新たな課題を踏まえ、今後の協会の方向性と取り組みを模索し、それぞれの立場からできることを提案したいと思います。

■会場までのご案内



※野島青少年センターへお越しの際は公共の交通機関をご利用下さい。
※駐車場は公園内及び周辺に民間のものがありますが、有料となります。

■シーサイドライン「野島公園」駅から徒歩８分
■京浜急行「金沢八景」駅から徒歩２０分



申込要領（参加申込、託児、資料販売、他）

❶ 参加申込について

別添の参加申込書を必要な枚数コピーして１人につき１枚記入してください。
必要事項を記入の上、電子メール、FAX、郵送でお申し込み下さい。申込書のデータはホームページからもダウンロードできます。
申込受理後、受付通知を発送します。参加費用は受付通知到着後、一週間以内にお近くの郵便局でお振り込みください。振込先は受付通知でお知らせします。
10 月 10 日を過ぎても受付通知が届かない場合は事務局までご連絡ください。

＊ 18 歳以下の参加費は無料です。(別途、宿泊費や食費はかかります。)
＊未成年でも親同伴でない方は、各自申込書に必要事項をご記入ください。
＊親が同伴するお子さまの申込書は不要です。
親の参加申込書に名前をご記入ください。

参加費は申込書をご参照ください。

●宿泊について

宿泊室は８人定員の洋室が１、２階で 25 部屋あります。
一泊一律 1,200 円です。　※他所に宿泊施設を確保する方は各自で手配をお願いいたします。

❷ 託児について

30 日（土）、31 日（日）の基調講演、分科会の時間に別室での託児を希望される方には予約を受け付けますので事務局までご連絡ください。折り返し託児の手続きを取らせていただきます。
対象年齢は１歳半～就学前、定員は先着２０名とさせていただきますので、お早めにご連絡下さい。

❸ 資料販売について

資料・本など販売したいもの、無料で配布したいものがある方は必ず申込締め切り日までに事務局にご連絡ください。販売は事務局側で行います。当日の持ち込みはご遠慮ください。
送り先等の手順は追って連絡いたします。

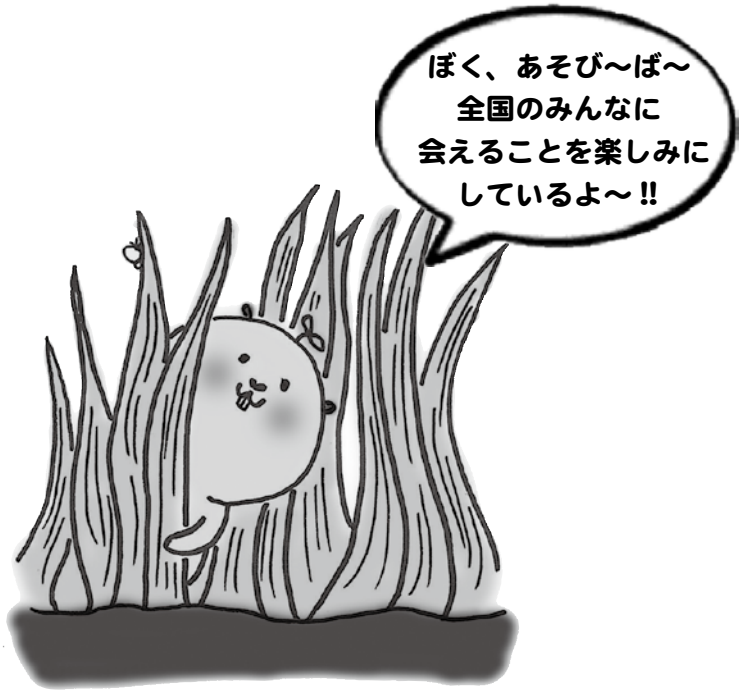
■申込受付期間：❶～❸、すべて 8 月 20 日（金）～ 9 月 30 日（木）必着です。
（ただし定員になり次第締め切ります。）

■参加申込、お問合せ

特定非営利活動法人**日本冒険遊び場づくり協会『第５回冒険遊び場づくり全国研究集会事務局』**
〒 154-0033 東京都世田谷区野沢 3-14-22
TEL . FAX ０３－５４３０－１０６０
http://www.ipa-japan.org/asobiba/
zenkokusyukai@ipa-japan.org

●第５回冒険遊び場づくり全国研究集会ブログ →
実行委員会で話し合われたことなど、全国集会までの道のりをお伝えしています。

第5回冒険遊び場づくり全国研究集会



マスコットキャラクター
あそび～ば～
デザイン：野下晃子

■ 助　成：独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

■ 後　援：文部科学省、厚生労働省、国土交通省、神奈川県、横浜市、朝日新聞社、読売新聞東京本社、共同通信、環境緑化新聞、社会福祉法人全国社会福祉協議会、財団法人横浜市緑の協会、(財) 公園緑地管理財団、(社) 日本公園施設業協会、こども環境学会、IPA(子どもの遊ぶ権利 のための国際協会) 日本支部、プレイグラウンド・セーフティ・ネットワーク（以下予定）環境省、林野庁

■申し込み、お問合せ：特定非営利活動法人**日本冒険遊び場づくり協会事務局**

〒 154-0033　東京都世田谷区野沢 3-14-22　**TEL , FAX ０３－５４３０－１０６０**

http://www.ipa-japan.org/asobiba/　**zenkokusyukai@ipa-japan.org**

携帯の方はこちらから→

● 申込受付期間 ：**８月２０日～９月３０日（木）必着。**